

平成25年度 第3回 藤島地域審議会

日 時 平成25年9月26日(木)

午前9時30分～

会 場 藤島庁舎3階 大会議室

－ 次 第 －

1 開 会

2 会長挨拶

3 報 告

(1) 地域振興計画の策定状況について【資料1】

4 協 議

(1) 藤島地域審議会の協議テーマについて

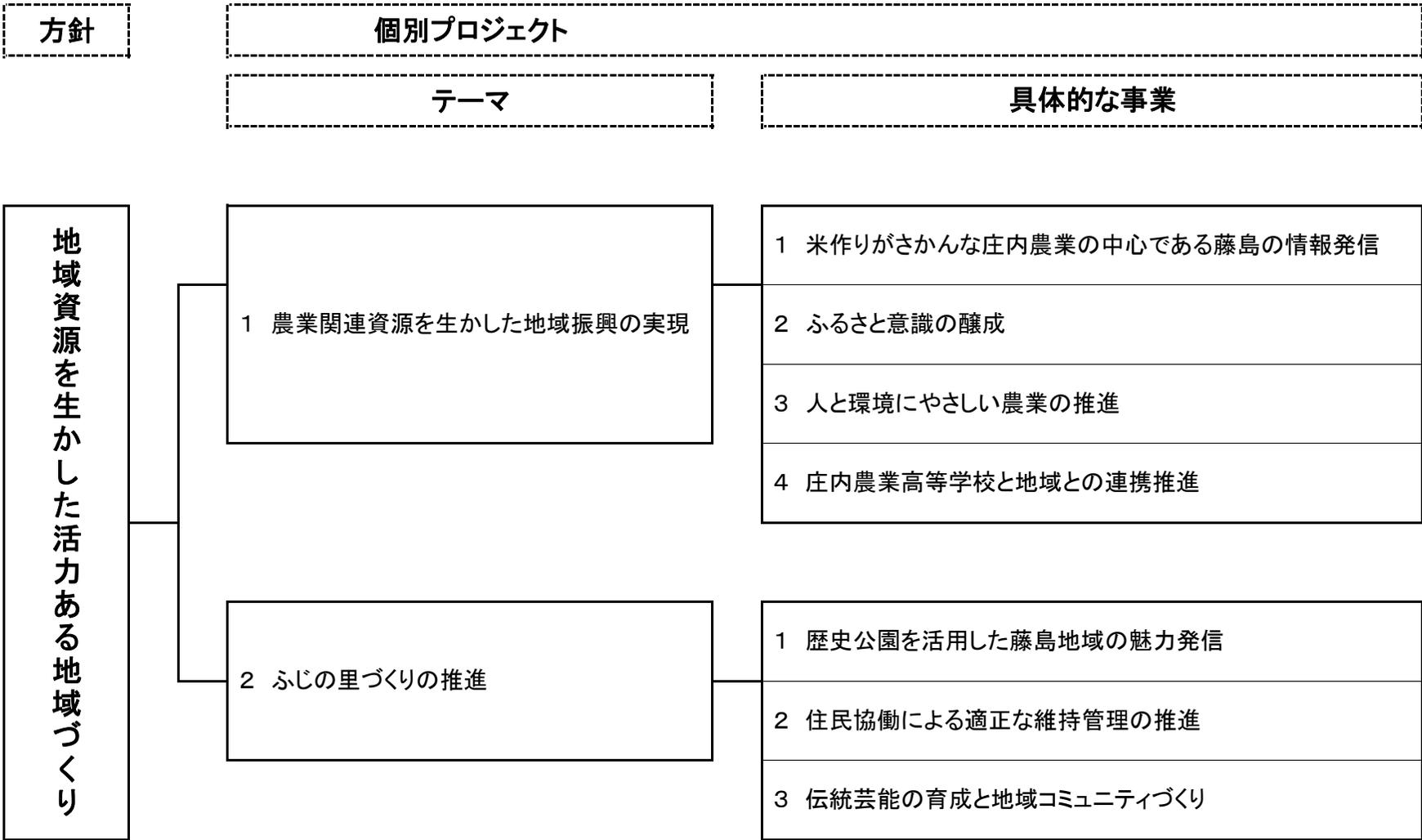
テーマ：「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」【資料2】

(2) その他

5 そ の 他

6 閉 会

藤島地域 地域振興計画の体系 (案)



藤島地域審議会 委員発言整理資料

テーマ：「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」

議論の視点：①農業資源を活かした交流人口の拡大について

現状と課題	提言の概要	具体的な解決策・施策
<ul style="list-style-type: none"> ・産直「楽々」とか庄農とか農業関係のものが沢山あるが、それぞれが単独で活動すると、そこだけで終わってしまう。 ・藤島のまちを見ても、商店は静かすぎて店も閉めている所も多い。 ・水田農業試験場は非常に優秀な試験場だということで、視察等で頻繁にマイクロバスが来ているが、勉強してすぐに帰っている。 ・首都圏からも来客があり、近くに食べる所はないか、見る所はないかとなるが、なかなか観光地はない。町内にも蕎麦屋がなくなってきて、交流人口も不足している。 ・つや姫の出荷初めは、酒田の倉庫から出ている。 ・高校生にしても、農業試験場の職員にしても、素晴らしい技術、モノを持っているが、抱えている課題も多くあり、それを繋げるコーディネーターする人がいない。 ・庄内農業高校、水田農業試験場で、外国の留学生で勉強したい、米に対して勉強したいという人達が、結構外国ではいるのでないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに藤島に魅力があるのか、知らない人は結構いると考えられる。まず地域住民の方に知ってもらうのも良いこと。 ・県の行政機関と地域の行政機関がタックルを組んで、来た方々で休む場所の提供などお金を使ってもらえるようにする。 ・酒田の山居倉庫と同じ作りの藤島駅前倉庫など、眠れる施設をもっと有効活用して人を呼べないか。 ・藤島で特有の食べ物、藤島はコレだというのが必要か。 ・小・中・高・一般市民を巻き込んだ形にすれば、藤島地域の力になってくるのではないか。 ・それぞれの施設の魅力は、各々の本来の目的をどれだけ進めるかということで、我々が出来ることは、繋げてあげることや情報発信のお手伝いである。 ・生物多様性、生産資源の保全、食料の持続的生産の観点まで含めた情報発信が出来れば、世界にも発信できる。この資源を繋げるだけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップを作る、立て看板を国道345号線など人目に付く様な所に設置する、マップの大きいものを設置する、大型バスが周遊できるような環境整備を図る。 ・つや姫の出荷初めは藤島から出せないか。発祥の地なので農協に藤島の宣伝の工面を願う。 ・施設、機関を繋げてあげて旅行会社から企画を組んでもらって、回るだけでも一つの手腕になるのではないか。 ・農業者、研究者、実践者、これから農業を始め人達をターゲットにして専門的な知識を体験、習得できるようなツアーを組む。 ・一般人向けには、施設や地域で体験できるような仕組みをつくる。 ・魅力ある食事処をつくる、発信する。 ・体験、食べさせる、泊める企画は、藤島だけでなく鶴岡全体、庄内全体考えてもいい。 ・色々な施設が集中している強みは、協議会を作って何か新しいものを作るだけで生かせる。 ・施設の個々で話すより、藤島庁舎で、県の3施設、市関連、公的施設と、施設で抱えている課

<p>観光も相当来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の人達は日本の農業については非常に興味がある。これから経済発展していく中で、知識、データを欲しているのは間違いない。 ・この地域に、地域活性化についても、草の根で、その筋では有名な人がいる。鶴岡では知られていないが他の地域で講演している。 ・交流人口拡大のテーマに「ぼっぼの湯」も入れていいのでは。隣りに田んぼを借りての貸し農園、隣りの柿農園を借りての柿オーナー制度等、いろいろやった経過もある。 	<p>でも農業分野で日本のトップリーダーになれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の命を支える農地面積をどう10年後まで持たせるかという環境保全型農業の視点から、あるべき社会を情報発信していけば、東京の消費者、子どもの親ほど関心を持つ。 ・宣伝の仕方、外国の人も藤島に来て、交流の人口が増えてくるのではないか。 ・外国へ農業について情報発信・提供ができれば、国としても送り出したいという形になる。 ・講座みたいなものを市で開設して、運営や勉強内容は、メンバーに任せる、講師謝金については市から補助する、そういう形にすれば、人材の芽は出てくるのではないか。 	<p>題、問題、希望を調べて、情報提供して、施設と結びつけてみると、いいものが出てくるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県からも、稲のことは藤島だと、外国に宣伝をしてもらいたい。県知事から相当運動展開をしてもらおうという方策も一案。 ・指導できる人が庄農の生徒や若い人と集まって議論するような場所、グループができれば。情熱のある人を育てる。これだけの運営費で盛り上げてくれというふうに。 ・庄農地域連携協議会10団体で1万円ずつ出せば10万円集まる。若い人達がコーディネーターとして育つような、グループができるような仕掛けを作った方がいい。 ・市外で著名になっているような市の若い人材について、鶴岡市で情報収集してネットワークをつなげると、大きい盛り上がりが生じるのでは。
---	---	---

議論の視点：②ふじ公園（歴史公園）を活かした交流人口の拡大について

現状と課題	提言の概要	具体的な解決策・施策
<ul style="list-style-type: none"> ・南から入る人達の駐車場がない。 ・ふじロードの通りは登下校の道になっており、公園の入り口で駐車場が見えないと、この通りに車の横付けの例が出てくる。子供の安全が心配で駐車場がないのは問題である。 ・歴史を重んじた造りになっているが、この公園で子どもたちが遊べるのか。子どもが行きたいと思える魅力を感じられない。 ・公園そばに郡会議事堂、東田川郡役所、図書館があるが、土日に閉館している。 ・公園はかなり緑地があり、メインは大藤等だが、回廊等がなくて日本一のフジということでお客を呼べるのか。どこにでもある散策できるような公園にならないように。 ・藤島地域は、小さいふじ公園、藤棚が多く、これほどあるところはほとんど無い。意識も高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが行きたいと思うような公園であれば、大人と一緒に動いて観賞し遊ぶ、そういった流れ、交流が生まれてくるのでないか。 ・公園敷地を全部藤棚にする、フジを植えるとか、日本一を目指すような方向で、10年かかっても藤島のふじ公園は日本一だと言われるくらいの施策はできないのか。 ・名前に歴史公園を付けなければならないのか。子どもたちがいる家族が来るぐらいの形の公園であってほしい。 ・物語り、交流人口拡大のストーリーを考えて、子供はどこへ、お年寄りはどこへ、食べるのはどこ、おみやげはどこ、そうすれば、この地域も潤う。 ・酒田大火のあとに復興を願って作られた酒田の獅子頭のように、藤島に物語をつくり、それに基づいたいろんな広がりをしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじ公園に2箇所トイレや案内板が必要でないか（農業技術改良普及課の側からの南口、商工会の西側駐車場）。 ・ふじ公園向かいの農業技術普及課に、広大な駐車場があるわけで、庁舎で交渉して駐車場として使わせてもらい看板も掲げてもらうような方法はお願いできないか。 ・フジが咲かない時に、ふじ公園を使って何かをやる。お茶会、フジの造花を提げる、冬場はイルミネーションをつける、万葉の植物を楽しめる様に植えておくなど。 ・野外ステージが必要でないか。 ・郡会議事堂、東田川郡役所、図書館等も含め、子供達が行きたい時、学校以外で行きたいと思う時も利用できるようにしていかないと。 ・オープンの際、新聞、ラジオとか広告などで知らせて、テープカットなどして大々的にやったらどうか。 ・桜の花見と同様に、ござを敷いて飲食できるようにしてもらいたい。 ・名称に「日本一ふじ公園」と、日本一をつけたほうがインパクトがある。 ・藤島をPRするキャラクターがいればどうか。 ・ふじ公園にフジの花の時期以外にも楽しめるよ

		<p>うな花壇等を作って、庄農生が花を植えて、地域の花を植えるようなボランティアとも一緒に連携して交流を深めていただいたら。</p>
--	--	--

議論の視点：③庄内農業高校との連携による地域活性化策について

現状と課題	提言の概要	具体的な解決策・施策
<ul style="list-style-type: none"> ・庄農は110周年過ぎが、内陸の農業高校が1か所、庄内に1か所しか無く、農業高校をここから無くしてしまうと困る。 ・農業高校も、県内では、庄農高と、置賜農業高の二つになってしまった。村山も、新庄も産業高校になった。 ・庄農は昔は競争率が高かったが、少子化になっているし、今は残念ながら少し定員に満たないという状況が続いている。 ・庄農に行く子供たち、前は大勢連なって歩いたが、今はポツポツとしかいない。 ・三重県多気町の「孫の店」は、高校生がやりたいようにできる場で、店のマネジメントなど全部行っている。指導者がいて失敗しそうな時は修正してくれる。全国から注目され、地元の生徒たちも、集まってくる。 ・青森市の高校生カフェは、高校生がメニュー作りから企画運営、家賃の支払いまで、全部やる。庄農の場合は、製造許可の問題で、保健所の許可が得られる仕切りとかを作れば売るとは可能らしい。 ・地域ですてあげたいという気持ちがあるので、施設の希望も聞いて何ができるかという場が必要。何を求めているか一緒になって協 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出る前、冒険ができるうちに、色んなことをやって、おもいっきり実験できる場所がこの地域にあれば、庄農の存続だけでなく、若者が集う街になれる。子供たちが明るい街であれば、住む人も増える。 ・高校生が自分達でこういうことができるんだっていう1つの前例があると、他の子供も進みやすい。この地域で農に根ざした高校があるので、先例をつけられないか。 ・鶴岡南から比べれば材料はいっぱいあり、それを利用してどんどんやったほうがいいのではないか。庄農は面白いところだ、もっと入れようとなる。 ・庄農を希望する子供が少ないとどんどん目減りして行くので、庄農を希望する子供が増えるよう、我々地域住民が子供たちを育てていかないか。 ・場をつくって、インターンシップのような形など色々と施設側と一緒に協力していかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業高校よりも実業高校という名前に変えれば非常に格好いい。格好いいかどうかは重要で、農家でなく6次化産業株式会社などと言えば、面白い、そこになら行ってみようかなとなる。 ・子供や親から校舎に入って見学してもらう。感激は生まれるはずで、魅力が沢山あることを広めて生徒数を増やしていくのがいい。 ・対象地域を広げて全寮制にして生徒を集めたり、従来の農業でなくバイオテクノロジーを学べるようにし、一般家庭の向学心の高い子供たちを受け入れられるような高校にして、農大やバイオの方面に進めるようなシステムも構築できれば、学校の存続も可能だろう。 ・バイオだとか山大の農学部が鶴岡にあるので、連携をしながら、地域の子供たちだけでなく全国に募集して、寄宿舎も新しく作ってはどうか。 ・造園科を作れば、東北の一円なり、ほかの学校ではやっておらず、商売やっている人も多いので、後継者育成のためにどうか。 ・庄農の生徒に色んなものを任せる。役場の空き部屋があるのであれば、アイデアがあれば自由に使っていいとか。アイデア潰さずに伸

<p>議しないと難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から生徒の研究で「ニューピス」(飲料)を作っており、非常に美味であるが、販売ができない。さらにうどんも作っているが、販売ができない。 ・庄農地域連携協議会について、高校生のポテンシャルを引き出せるような場づくりをするのであれば、大人は口出さない仕組みで。 		<p>ばしてやる地域ということになれば、鶴岡の中でも優位性を持てるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生による飲食店は、実例があり不可能ではないはずで、どうか。おそらく鶴岡南高校では出来ない、庄内農業高校で出来ないか。 ・この地域にも、高校生が、土日だけでも、うどん、ニューピスを出す店を運営して、メニューを考えて、決算、家賃の支払いまでやりくりを考えられる店が一つあるといい。 ・庄農地域連携協議会の10団体で、庄内農業高校の生徒を、夏休みと、春休みの期間、アルバイトで団体の仕事を体験してもらおう。いつかそこに勤めることになるかもしれない。 ・商工会青年部として、共有しあえる機会、より親密になれるきっかけが出来ればいい。ほかの高校と違った形で支援していけないか。 ・スーパー隣りにある農協の加工センターを重点的に動いたら活発化するのではいか。 ・庄農のうどんは、庄農の生徒でなくても別の人が藤島のどこかで作れないか。生徒と一緒に作ったことにすれば売れるのでないか。売上を生徒に何かがんばれってやるとか。 ・ふじ公園にフジの花の時期以外も楽しめるような花壇等を作って、庄農生が花を植えて、地域の花を植えるようなボランティアとも一緒に連携して交流を深めていただいたら。
---	--	--